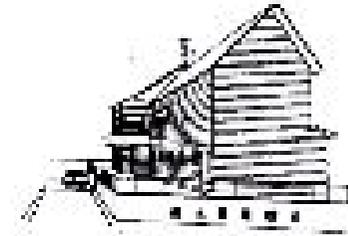


**<今朝の聖書から>** 先週の箇所を思い出しましょう。20：21に“イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをおつかわす。」とあります。“遣わす”という言葉は、信仰のゆえに、あえて行きたいと思わないような場所にも、その場所が“どこであっても”行くという意味で、伝道者や教師に当てはめ、その精神を表している箇所のように用いられる時もあります。そして実際に、いま私たちの教会が直面しているように、経済的困難にも出会います。この節では、“遣わす”という言葉が重要な意味を持っています。そして“あなた方に平安があれ”と対になっています。“平安”についてだけ語ることはできないのです。困難もあるだろう“送る”という言葉にも同じく直面しなければなりません。今朝の箇所も同じく、通ってゆくところ、羊の門について記されています。10：14に“わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。”という言葉はとても優しい言葉です。十字架に至るまで私を知ってくださったイエス様、しかしそのことを思い出さず時には、“また私を知っている”という言葉もついになって思いだされるのです。このことを主は掟(英語訳などでは殆んど“命令”等となっています)という言葉で示しています。1～5節の更なる解説に当たるこの箇所で、主はこのように語られます。ヘブル書の記者は“わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいって行くことができる(ヘブル10：20)”とこのことを記しています。神を知り、救われ、命を与えられ、全ての必要が満たされるのは、イエスの贖いの血潮によるのだということでしょう。私たちが“聖なる公同の教会を信ずる”と告白する内容は、どのようなものでしょうか。16節にその説明があります。“わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。”とあります。沢山の偽りの教師が現れましたし、いまもいます。様々な軍事的・政治的勢力に宗教的権威を授けたり、“雇用された羊飼いであるため”自力で それのみしか理解できないため 神の御心を決めようと思ってしまう。嘘をつく以上に、今も散らされているのです。

# 週報

2010年 4月 18日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042